

1. 評価結果概要表

平成 21 年 3 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503791		
法人名	株式会社 ケアスタッフ		
事業所名	グループホーム みちの木		
所在地	札幌市清田区平岡5条4丁目9番27号 (電 話) 011-889-0300		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】 (21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 2 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人,	常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費 18,000 円	冬季暖房費 8,000 円	
敷 金	㊦ (45,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (1月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	2 名	要介護 2	7 名
要介護 3	8 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82.2 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清田病院 ときわ病院 南青洲病院 さくら歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「みちの木」は、明るい陽光が差す家庭的な事業所である。その人らしい暮らしの支援を常に模索し、事業所全体で本人の喜びや自信に繋がる自立支援にきめ細かく柔軟に取り組み、日常生活が機能回復や低下予防に効果を挙げている。利用者は家事や畑作り、絵手紙や書道等、ゆったりとした時間の中で自らの力を発揮しながら過ごしている。家族会が組織されており、関係性も深まり厚い信頼を得ている。運営者や管理者、職員の温かで良好な関係の下、皆で楽しむ年中行事や外出行事の機会が数多く工夫され、利用者の笑顔のある暮らしの日々が窺える。恒例の「みちの木祭り」は大勢の地域住民との交流の場となり、存在感のある地域の事業所としての運営に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の改定については、全職員が時間を掛けて協議・検討に取り組み、独自の理念の策定に至っている。ほかの改善点に関しても、改善や改善に向けて継続的な取り組みを実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価への取り組みは、ホーム長・ユニットリーダーが中心に作成され、運営者・職員の意見を訊き完成している。ミーティングでは常に懸案事項が具体的に協議され、サービスの向上に意欲を持って務めている。さらに全職員一体となった評価への取り組みが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、18年10月より開催され、事業所の現状報告や取組状況、行事、外部評価などの内容で協議されており、意見などは運営に反映し、地域の「勉強会」の開催などに活用している。事業所への更なる理解や支援を頂くために、地域からの幅広い立場の人の参加者招集やテーマの工夫に積極的に取り組み、多様な意見表出を得て、より地域に密着した事業所運営が期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは利用者個別のきめ細かな報告がなされており、家族の訪問時や電話など接する機会を通して、気軽に要望や意見を話してもらえる雰囲気作りに配慮している。家族会が組織され、事業所行事や年数回の交流会は、良好なコミュニケーションが図られる機会となり、表された意見等は運営への反映に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域行事の参加や近隣住民との日常的なお付き合いがされている。町内清掃や小学校の資源回収場所としての協力、また玄関には介護相談ポスターを掲示をし、地域の活動の一端を担い、事業所機能を活かした地域貢献に努めている。恒例になっている事業所主催の「お祭り」を開催し、双方向の交流促進に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に策定された理念を、改めて地域密着型サービスの役割・意義を踏まえて職員全員で協議し、事業所独自の理念を作り上げている。また新理念は事業所内の目に付く場所に掲示し、パンフレットにも明記し、広く周知・啓発を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所全体で検討を重ねた理念見直しへの取り組みは、職員間でより深い共有や浸透の好機となり、理念の実践に向けチームとして日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、近隣住民とは日常のお付き合いのほか、町内清掃や小学校の資源回収への協力、介護相談ポスターの掲示を行ったり、地域活動の一端を担っている。また恒例となった「みちの木まつり」は大勢の参加をいただき、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所としてサービスの向上への意識を高く持ち、改善に意欲的に取り組んでいるが、今回の自己評価は、ホーム長・ユニットリーダーによって纏められ、事業所全体での取り組みまでには至らず不足感が見られる。	○	自己評価は、全職員が一体となった取り組みが期待される。自己評価の項目に職員個々が取り組むなど、全職員の評価に対する認識をさらに高めて、事業所の質向上に最大限を活かしていく事が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年10月から町内会長、包括センター職員、家族などの参加により、会議が開催されている。事業所の現状報告、行事など地域に密着した内容の協議がなされ、地域への「勉強会」の開催など運営反映に努めているが、十分な活動に至っていない。	○	今後は地域から幅広い立場の人の参加者招集に努め、事業所がより豊かに機能する為のテーマの工夫に取り組み、より多様な意見の表出をいただいて、サービス向上に活かす為にも、定期的開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは、介護保険などや業務上で生じた課題の解決に向け、随時相談し、協働が諮られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回のホームのお知らせと共に、個別に健康状態や生活状況等を伝えるお便りに写真を添えて送付している。また、来訪時には金銭出納帳を確認して頂き、更に状態変化時には速やかに連絡を取るなど個別にあわせたきめ細かな対応がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設けられ、年に数回の交流会の中で、家族とのコミュニケーションが取られている。日常的に率直な意見や要望など話してもらえる信頼関係が築かれてる。今後も家族からのきめ細かな意向の聴取に努め、運営に活かす姿勢を保持している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内では率直な意見交換が行なわれ、離職を抑える体制作りに努めている。介護支援の慣れ回避などを考慮し、若干のユニット間異動は実施されているが、事業所内の上下階の行き来は頻繁にあり、利用者への馴染みの関係性重視の姿勢が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内マニュアルによる採用時研修が実施され、外部研修については、積極的に参加を促し、研修後の報告書の提出、資料の回覧などで、職員間の共有に努めている。事業所内では介護支援の相談や指導、また経験が上手に伝わる関係にあり、実際時のケア場面の学びが進められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国介護事業者協議会、区のケア連絡協議会・管理者会の参加を通してネットワーク作りが促進され、職員間の研修や見学交流など同業者との関係を深めつつ、共にサービスの向上に協働が図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に当たっては、関係者からの情報収集に努めている。病院への面会や事業所の見学を薦め、行事への参加や他の利用者と一緒に過ごしてもらいながら、本人の気持ちを最優先し、利用者の納得や安心感に至るまでの時間を十分に配慮し、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	してあげる介護から、本人が本来持っている力を引き出し、足りない部分を支える介護の実践に取り組んでいる。年中行事や料理、畑作りなどできる事はしてもらい、喜びや自信に繋がる支援を行っている。その過程の中で、利用者から教わる事や励まし、労いの言葉も多くあり、共に過ごす者としての温かな信頼関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、家族や以前の介護関係者、職員の気づきなど、情報の蓄積・共有が丁寧に行われている。利用者の思いを引き出す方法や対応、場面など一人ひとりに応じた個別の工夫を通して、本人の意向の把握、検討に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティング時に、個々の状況を検討し、評価については全職員の気づきや意見が文書化されている。介護計画の作成には家族の意向や医療面での指示なども盛り込み、本人の意思が反映されるよう関係各者の視点を検討し、具体的な計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを実施し、長期6ヶ月、短期3ヶ月の定期期間内の見直し、また状態変化に対しては迅速な見直しを行い、現状に即しての計画作成に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制の指定を受け、日常的な健康管理に努めている。また本人、家族の状況に応じて、通院時の送迎などを臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や訪問歯科診療、また連携医療機関への受診の支援を行っている。医療機関との密な連携により、健康面での随時の相談や指示を得られ、更に入院時においても、本人の負担を少なくする為の早期退院を図るなど、適切な医療支援を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、重度化や終末期ケアの実践は経験されていないが、重度化した場合の対応の指針及び同意書が作成され、家族の同意を得ている。	○	開設3年目を経過し、事業所として現段階での家族の意向確認の方向を示している。今後の利用者の重度化に備えて、家族の意向を踏まえ、具体的あり方について継続的な協議や共有を図ると同時に、適切なサービスが提供できるよう職員教育を充実し、家族の安心に向けての取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法についての確たる認識を持ち、注意深くプライバシーやプライドを損なわない対応に取り組み、また記録などの保管・管理の徹底も図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の「笑顔」を常に意識し、その人らしい暮らしの模索に努めている。基本的な時間の流れはあるが、自立支援をベースに、その時々本人の気持ちを受け留めた支援を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事や食に関する一連の作業を大切に捉えており、一人ひとりの好みや意欲を引き出し、一緒に調理や盛付け、後片付けなどを行っている。職員はさりげない配慮をしながら会話を交わし、利用者と落ち着いた楽しい食事を共に味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回以上を原則とし、チェックシートを活用し把握している。希望があれば毎日の入浴も可能な体制である。利用者の身体状況に応じたシャワー浴や、ゆったりと時間を掛けた入浴には、好みの音楽や入浴剤を使用して気持ち良く楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの喜びや得意事、できる事を見極め、励ましながらチャレンジを支えている。調理の手伝いや洗濯物のたたみ、編物、絵手紙や書道、ハーモニカ、また懐かしい年中行事など楽しみごとや自信に繋がる多様な場面を工夫し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や公園に出掛け、事業所中庭での昼食や焼き肉会、またお花見や工場見学、地域交流会への参加など様々な機会を柔軟に捉えて、日常的に利用者が戸外で楽しめる機会を作り支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠については夜間のみ、防犯上の理由で実施されている。職員は利用者の自由で安全な暮らしの維持に、見守りを強化し支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報システムなど防災機器の使用法の訓練を行なっている。今後、災害時における実践的訓練の実施が予定されている。	○	定期的な消火、避難訓練の実施や避難経路の確認など、昼・夜間を想定した実践的訓練の取り組みを期待する。また運営推進会議などを通して地域の協力体制の構築などの取り組みも望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望や好みを取り入れながら、栄養バランスやカロリー摂取、彩りや盛り付けに配慮され作られている。利用者の状態に応じた食事の管理・調整が実施され、見た目にも美味しく食事が楽しめるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした台所周りや陽光の温かいリビングは、季節の装飾や行事の写真、植物などスツキリと飾られており、生活感や季節感のある落ち着いた家庭的な空間になっている。ベランダに面したソファースペースも、利用者の憩い場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や寝具、大切にされているもの、装飾品などが持ち込まれている。見当識に配慮された入り口のメモリアルボックスや暖簾など、その人らしい心地よい暮らしや安全面での気配りがされている。		

※  は、重点項目。